



## 東北ブロックのHIV医療体制整備

研究分担者 伊藤 俊広  
 (独)国立病院機構仙台医療センター  
 HIV/AIDS包括医療センター 室長

### 研究要旨

平成28年度9月の時点で、前年度からの1年間の東北地域におけるHIV/AIDS新規患者報告数は33例で、AIDS発症は12例（36.4%）とAIDS発症率（いきなりAIDS率）は従来同様全国平均より高値であった。医療の均てん化を目標に医療・介護・行政・NPOすべてを対象とした連絡会議やカンファランス、各職種ごとの連絡会議・研修会、地域の拠点病院を対象とした出張研修を行い、HIV診療における最新情報を広めるとともに地域における問題点を議論し改善策を検討した。東北地域における各拠点病院が抱える問題は、HIV感染症例が少なさゆえの経験不足からくる診療不安や関心の低下である。それらに起因する院内研修を始めとする診療体制構築活動の困難さが生じており、42拠点病院中16施設で患者0人という実態や診療が中核拠点病院に集中することにつながっている。昨年度より開始された出張研修は要望が多く、開催地では出席者が多い点はHIVへの関心度が必ずしも低くないことの表れと捉えることも可能であり、症例の少ない東北地域において研修活動を実施していく上で配慮すべき点である。また、今年度初めて大学病院への出張研修が実現した。学生教育の一環として関与できた点は意義深い。今後もHIV関連スタッフ（医療機関、介護福祉期間、教育機関、NGO、行政など）の人的パワーの拡充を促し、病院間の連携を強化し、会議、研修を充実させ診療体制の構築を図る必要がある。

#### A. 研究目的

すべてのHIV感染症の患者に対し均一かつ良質の医療を提供するための医療体制の構築（均てん化）を目的に東北ブロックのHIV医療体制整備に関する研究を行った。

ト、各医療機関との情報交換、アンケート調査などを積極的に行なうとともに、HIV診療を行なうに当たって妨げになっている種々の問題点を明らかにし、医療体制を構築していく。一般の医療機関やコメディカルも含めた研修会や会議を行なうことにより医療体制の均てん化をめざす。

#### B. 研究方法

- 1) 東北地域のHIV感染者動向、拠点病院における診療実態調査を行う。
- 2) 診療体制の維持・向上のため、連絡会議、研修会、カンファランスを開催する。  
 東北の各県における中核拠点病院および拠点病院との間でネットワークを構築し、ブロック拠点病院（仙台医療センター）からの情報提供や診療サポー

#### （倫理面への配慮）

研究の性格上倫理的問題が生じる可能性は低いが、患者個人のプライバシーの保護、人権擁護は最優先される。研究内容によっては、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査、疫学研究に関する倫理審査、臨床研究に関する倫理審査を適宜受け実施する。

C. 研究結果

1) 診療実態調査

平成28年9月時点で東北ブロックにおけるHIV感染者の累計は578人で前年同時期から1年で33人の新規報告があった。各県の増加数は青森県3人、秋田県3人、岩手県4人、山形県2人、宮城県14人、福島県7人であり、平成28年9月時点で年内のいきなりAIDS例は12例で新規報告の36.4%を占めた(図1、2)。平成28年10月に行われた拠点病院対象のアンケート調査(表)では全拠点病院42施設

のうち現在実際に患者を診療している施設は昨年同様26施設(残りの16施設は患者0人)であり、現在診療中の患者の85%は大学病院もしくは中核拠点病院で加療されている。その内、薬害被害者(血友病)は47例中31例は中核拠点病院、それ以外は以前から血友病診療にかかわってきた施設で診療されている。施設現状報告によれば、症例不足や経験不足からくる対応不安、関心低下や付随する啓蒙活動の低下、そして人材の不足、専従(専任)看護師の不在、職種間ネットワークが形成できない(すなわち

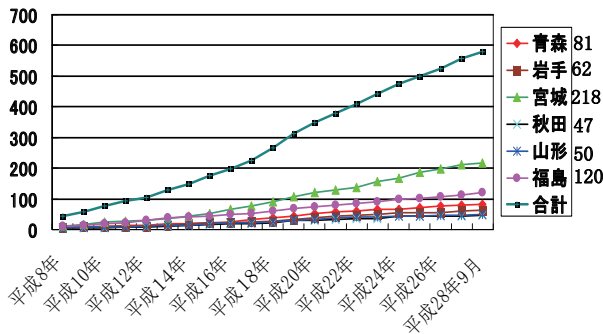


図1 東北県別エイズ/HIV感染者累積数推移 (非血友病) 総計578人 (H28.9月)

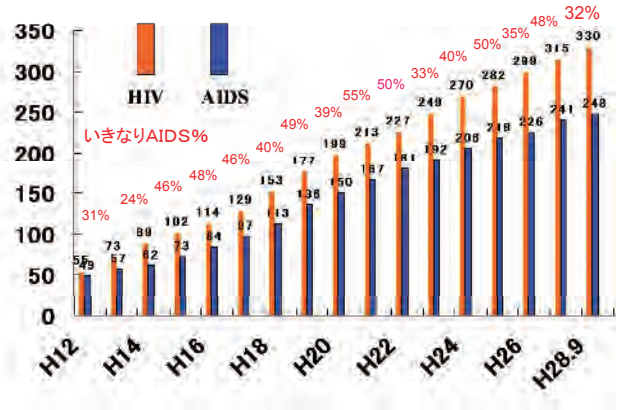


図2 東北エイズ/HIV患者累積数推移 (H28.9月)

表 東北拠点病院診療状況 (現在診療中の実患者数) H28.10月現在

県	住所	施設名	県合計	総数	経路内訳				
					異性間	同性間	製剤	薬物	不明その他
青森県	青森県弘前市本町53	弘前大学医学部附属病院	72	20	5	12	1	0	2
	青森県弘前市富野町1	独立行政法人国立病院機構 弘前病院		1	0	0	0	0	1
	青森県青森市東道2-1-1	青森県立中央病院(中核拠点)		35	9	21	2	0	3
	青森県八戸市田向字里沙門平1	八戸市立市民病院		16	6	6	0	2	2
岩手県	岩手県盛岡市内丸19-1	岩手医科大学附属病院(中核拠点)	38	21	4	11	1	0	5
	岩手県一関市山自字泥田山下48	独立行政法人国立病院機構 岩手病院		0	0	0	0	0	0
	岩手県盛岡市上田1-4-1	岩手県立中央病院		17	4	4	0	0	9
	岩手県盛岡市青山1-25-1	独立行政法人国立病院機構 盛岡病院		0	0	0	0	0	0
宮城県	仙台市宮城野区宮城野2-8-8	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター(プロ・中核)	211	158	30	106	21	1	0
	仙台市青葉区星陵町1-1	東北大学医学部附属病院		46	4	9	3	0	30
	宮城県栗原市瀬峰海岸55-2	宮城県立循環器・呼吸器病センター		0	0	0	0	0	0
	宮城県亶理郡山元町高瀬字合戦原100	独立行政法人国立病院機構 宮城病院		0	0	0	0	0	0
	仙台市太白区鶴取本町2-11-11	独立行政法人国立病院機構 仙台西多賀病院		5	0	0	0	5	0
	仙台市太白区あすと長町1-1-1	仙台市立病院		2	0	2	0	0	0
	宮城県名取市愛島塩手字野田山47-1	宮城県立がんセンター		0	0	0	0	0	0
秋田県	秋田県秋田市 広面字蓬沼44-2	秋田大学医学部附属病院(中核拠点)	36	25	10	12	2	0	1
	秋田県横手市前郷字八ツ口3番1	平鹿総合病院		2	2	0	0	0	0
	秋田県大館市豊町3-1	大館市立総合病院		8	3	3	2	0	0
	秋田県秋田市上北手猿田字富代沢222-1	秋田赤十字病院		1	0	0	1	0	0
	山形県山形市飯田西2-2-2	山形大学医学部附属病院		9	1	5	1	0	2
山形県	山形県西村山郡河北町谷地字月山堂111	山形県立河北病院	36	0	0	0	0	0	0
	山形県鶴岡市泉町4-20	鶴岡市立荘内病院		0	0	0	0	0	0
	山形県米沢市相生町6-36	米沢市立病院		0	0	0	0	0	0
	山形県新庄市若菜町12-55	山形県立新庄病院		0	0	0	0	0	0
	山形県山形市青柳1800	山形県立中央病院(中核拠点)		16	2	9	0	0	5
	山形県山形市七日町1-3-26	山形市立病院済生館		2	1	1	0	0	0
	山形県酒田市あきほ町30	独立行政法人山形県酒田市病院機構 日本海病院		8	5	2	1	0	0
	山形県東置賜郡川西町大字西大塚2000	公立置賜総合病院		1	0	1	0	0	0
福島県	福島県福島市光が丘1	福島県立医科大学附属病院(中核拠点)	65	26	8	9	5	0	4
	福島県須賀川市戸田塚13	独立行政法人国立病院機構 福島病院		0	0	0	0	0	0
	福島県会津若松市河東町谷沢字前田21-2	福島県立医科大学会津医療センター附属病院		1	1	0	0	0	0
	福島県いわき市内郷飯沼沼尻3	福島労災病院		1	0	1	0	0	0
	福島県郡山市熱海町熱海5-240	太田総合病院附属 太田熱海病院		0	0	0	0	0	0
	福島県白河市豊地上次次郎2番地1	白河厚生総合病院		0	0	0	0	0	0
	福島県会津若松市鶴賀町1-1	白楡会総合会津中央病院※		2	0	0	0	0	2
	福島県郡山市西ノ内2-5-20	太田総合病院附属 太田西ノ内病院		23	5	17	0	0	1
	福島県須賀川市北町20	公立岩瀬病院		0	0	0	0	0	0
	福島県会津若松市山鹿町3-27	竹田総合病院		0	0	0	0	0	0
	福島県いわき市錦町落合1-1	風羽総合病院		0	0	0	0	0	0
	福島県いわき市内郷御殿町久世原16	いわき市立総合医療センター 共立病院		11	5	4	2	0	0
	福島県郡山市駅前1-1-17	湯浅報恩会 寿泉堂総合病院		0	0	0	0	0	0
	福島県原町市泉町2-54-6	南相馬市立総合病院		1	0	1	0	0	0
42施設合計				458	105	236	47	3	67
				総数	異性間	同性間	製剤	薬物	その他

※薬剤等の受診のみでHIV治療のための患者はゼロ(会津中央病院)

チーム医療加算がとれない)などの問題が生じていること、比較的患者診療が行なわれている施設からは次世代診療医師の育成問題、患者高齢化を意識した合併症管理や介護・福祉関連問題が指摘されている。

## 2) H28年度、本研究に関連し実施・参加された会議・研修会について以下に記す。

東北エイズ/HIV看護研修（H28.9.30: 仙台）、東北HIV 歯科拠点病院等連絡協議会（H29.2.18: 仙台、予定）、東北ブロック・エイズ拠点病院等連絡会議（H28.6.21: 盛岡）、東北エイズ/HIV薬剤師連絡会議（H28.10.22: 仙台）、東北エイズ臨床カンファレンス（H29.2.11: 仙台、予定）、東北HIVネットワーク会議（H29.2.11: 仙台、予定）、宮城県HIV/AIDS 学術講演会（H28.8.6: 仙台）、東北エイズ・HIV 拠点病院等心理・福祉職連絡会議（H28.10.22: 仙台）、仙台医療センター健康まつり HIV パネル展（H28.11.5: 仙台）、東北ブロック・エイズ拠点病院等連絡会議（H29.1.11: 仙台）、HIV/AIDS 包括医療センター出張研修①秋田大学病院（H28.5.20: 秋田、300名参加）、②国立病院機構弘前病院（H28.7.22: 青森県弘前市、72名参加）、③寿泉堂総合病院（H28.10.28: 福島県郡山市、134名参加）。HIV 関連講義依頼：宮城県精神医療センター、仙台市立仙台工業高等学校保健講和、仙台医療センター看護・助産学校講義、国立病院機構山形病院附属看護学校講義、エイズ予防財団委託事業：HIV と性感染症講演会（歯科医師会）。行政連携：仙台市エイズ性感染症対策推進協議会、仙台市 HIV 即日検査会、同性愛者等の HIV に関する相談・支援事業協議会（エイズ予防財団）。薬害関連：薬害エイズ裁判和解20周年記念集会、長期療養とリハビリ検診会（はばたき事業団）、HIV/AIDS 重複感染者患者に対する肝移植に関する公開シンポジウム、etc.

## D. 考察

東北ブロックにおいては1年間の新規HIV感染者は33人で新規感染者の増加は観察されていない。いきなり AIDS 発症は36.4%と例年より低めであるが、依然予断を許さない。hard to reach 層を HIV 受検に導く方法を今後も模索する必要がある。診療経験の少なさからくる諸問題の解決は症例検討を通し

た疑似体験や研修会を繰り返し行っていくしかない。前年度（平成27年度）より始まった HIV/AIDS 包括医療センター出張研修は本年度も3施設で行うことができた。秋田大学病院への研修では職員・学生を含め300人の参加者を募ることができ、特に学生に対しては特別講義の形で教育の一環として関与できた意義が大きい。教職員全体の HIV 感染症に対する関心の高さも実感できた。HIV 感染者の高齢化への対策として、種々の合併症に対処する HIV 情報を一般診療所のレベルから、ケアを中心的に担う介護施設などの福祉関連機関との連携、研修会・講演会を始めとした地方自治体および中核拠点病院における積極的な活動を継続して行なっていくことが必要である。歯科領域では中核拠点病院歯科連絡会議を通して診療ネットワークが構築されつつあるが、歯科クリニックや在宅歯科との連携はこれからの課題である。拠点病院間（ブロック拠点、中核拠点、拠点）だけでなく、一般クリニックや介護・福祉施設をまきこんだ研究活動を行っていく必要がある。診療体制構築する上で感染不安の除去は重要であり、今後も暴露時の体制を整え、周知させていくことが今後も必要である。

## E. 結論

東北においては新規 HIV 感染者の増加は観察されていない。平成28年9月までの1年間で AIDS 発症割合は36.4%で例年より低めの数値ではあるが余談を許さず、HIV 検査受検数を増やす努力を今後も継続していく必要がある。感染者の絶対数が少ないことは HIV 感染症に対する関心度を下げ、診療体制の整備を進めていく上でのハンディとなりうるが、研修・会議を繰り返し実施していくことで今後も医療・行政・教育・NGO など種々の職種間との連携を深め、体制整備を進めていく必要がある。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

- 金子典代、塩野徳史、内海眞、健山政男、鬼塚哲郎、伊藤俊広、市川誠一. 成人男性の HIV 検査受検、知識、HIV 関連情報入手状況、HIV 陽性

者の身近さの実態－2009年調査と2012年調査の比較－：日本エイズ学会誌 2016、受理

- 2) 須貝 恵、吉用 緑、センチノ田村恵子、鈴木智子、辻 典子、築山亜紀子、濱本京子、田邊嘉也、伊藤俊広. 拠点病院診療案内2014年度版からみる拠点病院・中核拠点病院の現状：日本エイズ学会誌18(3)、253-255、2016

## 2. 口頭発表

- 1) 岡崎玲子、蜂谷敦子、濁永博之、渡邊 大、長島真美、貞升健志、近藤真規子、南 留美、吉田 繁、小島洋子、森 治代、内田和江、椎野禎一郎、加藤真吾、豊嶋崇徳、佐々木 悟、伊藤俊広、猪狩英俊、上田敦久、石ヶ坪良明、太田康男、山元泰之、福武勝幸、古賀道子、林田庸総、岡 慎一、松田昌和、重見 麗、濱野章子、横幕能行、渡邊珠代、田邊嘉也、藤井輝久、高田清式、山元政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、岩谷靖雅、吉村和久. 国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-1の動向：第30回日本エイズ学会学術集会、鹿児島、2016
- 2) 戸上博昭、矢倉裕輝、平野 淳、高橋昌明、吉野宗宏、阿部憲介、神尾咲留未、大石裕樹、竹松茂樹、垣越咲穂、山本有紀、伊藤俊広、山本政弘、水守康之、金井 修、内海 眞、渡邊大、横幕能行、白阪琢磨. UGT1A1遺伝子多型のドルテグラビル血中濃度に及ぼす影響に関する研究：第30回日本エイズ学会学術集会、鹿児島、2016
- 3) 神尾咲留未、阿部憲介、近藤 旭、小山田光孝、佐々木晃子、伊藤ひとみ、佐藤 功、伊藤俊広. 抗HIV薬と併存疾患治療薬との薬物相互作用に関する取り組み～一覧票表の作成～：第30回日本エイズ学会学術集会、鹿児島、2016
- 4) 神尾咲留未、阿部憲介、近藤 旭、平野 淳、戸上博昭、矢倉裕輝、横幕能行、渡辺 大、白阪琢磨、小山田光孝、伊藤俊広. UGT1A1遺伝子多型のdolutegravir血中濃度に及ぼす影響－仙台医療センターHIV症例の検討－：第70回国立病院総合医学会、沖縄、2016

## 3. その他

なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし